



張出し側については主桁フランジの外側にプレートを設置し、ハンチプレートの勾配のない部分のみを切欠く構造とした。また、支間側はハンチプレートを添接板の幅分だけ大きく切欠き、3方向にあて板を設置して主桁との隙間を塞ぐこととした。また、あて板を設置する際には主桁とあて板の間およびハンチプレートとあて板の間にコーキングを施し、パネルとの隙間を塞ぐこととした。コーキングの施し難い支間側はコーキングを施した後、あて板を設置した。

また、本橋は勾配の低い側の添接板の横には必ず水抜き用のL型鋼が設置されているので、張出し側は水抜きパイプの出ている分ハンチプレートを切欠き、その周囲にあて板を配置した。支間側は、(添接板+L型鋼)の分だけハンチプレートを切欠き、あて板も水抜きパイプ分切欠くような形状とした(図-5)。また、支間側のコーキングを施し難い部分については、一部無収縮モルタルを打設して止水することとした。

3) パネル継手部

パネル継手は2枚の底鋼板にねじ付きスタッドを溶着し、添接板を使用したボルト継手構造としている(図-6)。従って、添接板と底鋼板の隙間からモルタルが漏れる恐れがあるので、添接板の下側に丸ゴムを設置した他、添接板設置前にコーキングを施して添接板を貼り付けるようにした。隙間の大きいところなど、必要に応じてアルミテープを用いて処置することとした。

また、壁高欄が設置される側面の継手部は内側にねじ付きスタッドを溶着し、あて板を設置して金具で押さえ込む構造としている。あて板と側板との隙間からのモルタル漏れを防止するため、あて板の裏側に丸ゴムを設置する構造とした。また、側板と底鋼板のコーナー部についてはあて板設置前にアルミテープおよびコーキングを使用して処置することとした(図-7)。

(4) 実験結果

実験は鋼型枠内部に水を注入することによって行われた(写真-1)。水を注入して丸2日放置したが、水漏れはなく、モルタル漏れ対策の有効性が確認できた。

4. まとめ

JH 豊田ジャンクションで適用されたトラス型ジベル合成床版に対し、コンクリート打設時のモルタル止め防止対策について、1)主桁とハンチプレートとの隙間 2)主桁添接部 3)床版継手部の3部分について対策を行えばよいことがわかった。本検討結果を踏まえ、現在、現地施工を実施中である。以上

【参考文献】1)山本、水口他：豊田ジャンクション・トラス型ジベル合成床版の静的耐荷力に関する実験的研究，第55回年講，2000.9，土木学会 2) 山本、小出他：トラス型ジベル合成床版の疲労耐久性に関する実験的研究，同 3) 山本、水口他：豊田ジャンクション・トラス型ジベル合成床版の型枠剛性に関する実験的研究，同

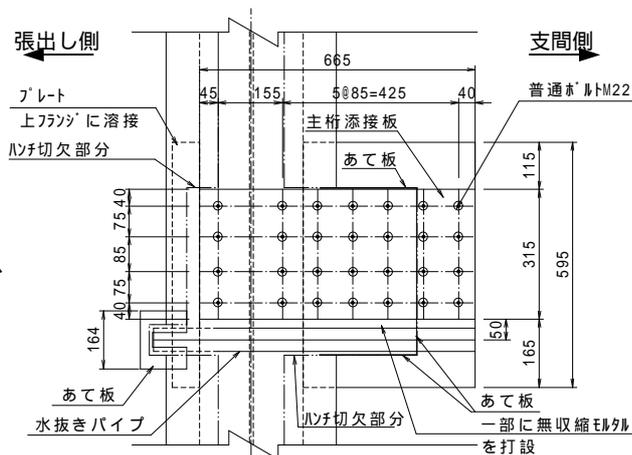


図-4 主桁添接部

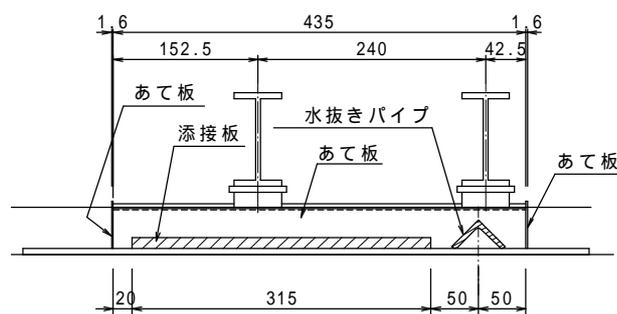


図-5 主桁添接部(支間側断面)

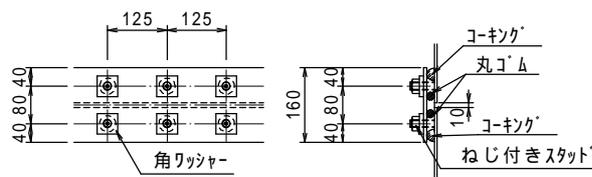


図-6 パネル継ぎ手部

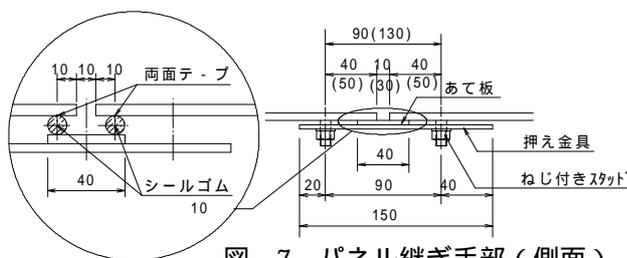


図-7 パネル継ぎ手部(側面)



写真-1 試験状況(水注入後)